

樹木のタネ

樹木のタネといえばどのようなものを想像しますか。ドングリやトチの実、クリの実などでしょうか。タネといえば一般的には種子（しゅし）と同じ意味で使われているように思えます。しかし、図鑑などの定義に従えば、トチの実（写真1上）は種子になります。クリの実（写真1下）やドングリは果実になります。



写真1

では、種子と果実（かじつ）はどのように違うのでしょうか。例えば果物の力を考えてみましょう。皆さんが口にする力は果実（内果皮）の部分

果実と種子

タネを見分ける
—— 親木を探そう ——

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 大洞 智宏



で、その中からタネ（種子）が出てきます。力を切ってみればよく分かりますよね。しかし、私たちは種子と果実を区別せず「タネ」として見ていることが多くあります。

例えば、クリの実はいがの中から出てくるので種子のように見えますが、実際には果実に分類されます（堅い鬼皮の部分と渋皮の部分が果皮になりその内側が種子になります）。また、カエデの実がプロペラ状になりますが、これは果皮が発達したものなので果実に該当します。

細かく見るとややこしくなるので、今回はクリやカエデなどのように果実が一般的にタネとして取り扱われるものや種子をまとめて「タネ」として話します。

タネを見分ける

タネと一口に言ってもリンゴと力木のように樹木によってその形は大きく

異なります。逆に考えれば、タネの特徴からその親となる樹木の種類を推測することができるといことです。

タネの持つ特徴は色々ありますが、大きさという面からタネを見てみると、直径1mm程度でルーペを使わないとゴミと見分けのつかない小さなものと（写真2下 イズセンリョウ）から、直径5cmを超える大型のもの（写真2上 モダマ）、はては、世界最大の長さ35cmにもなるオオミヤシのタネなどがあります。

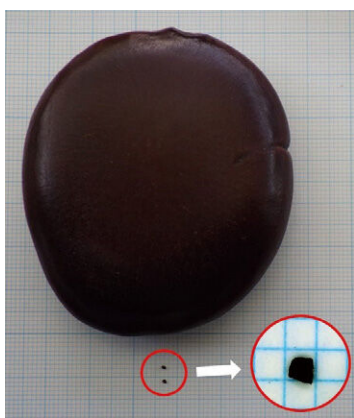


写真2

形という面では、写真3のように、

フジは扁平でボタンのような形、エゴノキはラグビーボール型、ナンテンは中央が凹むお椀型、ソヨゴは三日月型、マンリョウは縞模様のある球形というように非常に個性豊かで、すぐに何のタネなのか覚えることができます。



写真3

しかし、実際には非常に似通ったタネもあるので判別が一筋縄ではいかない部分もありますが、大きさや形の特徴を利用して、親木の種類が検索できる図鑑※も出版されているので調べることは特別困難ではありません。検索が面倒でも図鑑を眺めながら自然の造形の美しさ、不思議さを味わうだけでも楽しいと思います。

野外で落ちているタネを見つけたら、形を観察してどの木から落ちてきたのかを推理してみてください。

※「木のタネ検索図鑑」小南陽亮、田内裕之、八木橋勉 編著 文一総合出版
注：写真の背景はいずれも1mm方眼